

令和２年度 自主防災組織に関するアンケート集計結果

目次

１．アンケートの概要	１
２．アンケートの結果	２
(１) 自主防災組織の実態について	２
(２) 避難所運営委員会について	５
(３) 避難行動要支援者名簿に係る個別計画について	１１
(４) その他	１７

■自主防災組織に関するアンケート（アンケートシート）

令和３年５月

津市 危機管理部 防災室・各総合支所 地域振興課

1. アンケートの概要

○ アンケートの目的

自主防災組織における活動状況とその課題を改めて把握することで、今後の地域防災力の向上に役立てていくため。

○ アンケートの対象

津市内の 8 2 7 の自主防災組織

○ アンケートの方法

郵送にて各自主防災組織の会長に送付及び回答依頼

F A X、電子メール、郵送、市関係機関への持参のいずれかの方法にて回収

○ アンケート期間

令和 3 年 2 月 2 6 日から令和 3 年 3 月 2 4 日まで

○ アンケート配布数及び回収数

対象地域	配布数	回収数	回収率
津全域	8 2 7	5 6 3	6 8 . 0 %
津	3 2 2	2 0 9	6 4 . 9 %
久居	1 2 0	8 2	6 8 . 3 %
河芸	2 5	2 2	8 8 . 0 %
芸濃	5 2	3 1	5 9 . 6 %
美里	1 6	1 4	8 7 . 5 %
安濃	4 7	3 7	7 8 . 7 %
香良洲	1	1	1 0 0 . 0 %
一志	4 9	4 0	8 1 . 6 %
白山	6 5	4 8	7 3 . 8 %
美杉	1 3 0	7 9	6 0 . 7 %

○ 注意事項

- ・ 各設問は無回答を含めて集計している。
- ・ 図表中の構成比率は、小数点第 2 位以下を切り捨てしている。
- ・ 図表中の「n」（Number of samplesの略）は、設問に対する回答者の総数を示しており、回答者の構成比（%）を算出するための基数である。

2. アンケートの結果

1 自主防災組織の実態について

(1) 令和2年度において、防災組織に関する総会・会議等を開催しましたか。

☐ 実施した ☐ 実施していない

- ・ 防災組織に関する総会・会議等の開催について、開催した組織は169組織でした。

	実施した	実施していない
総会・会議等の開催	169	394

n=563

(2) 令和2年度において、防災組織に関する訓練・研修会等を開催しましたか。

訓練：☐ 実施した（ 回） ☐ 実施していない

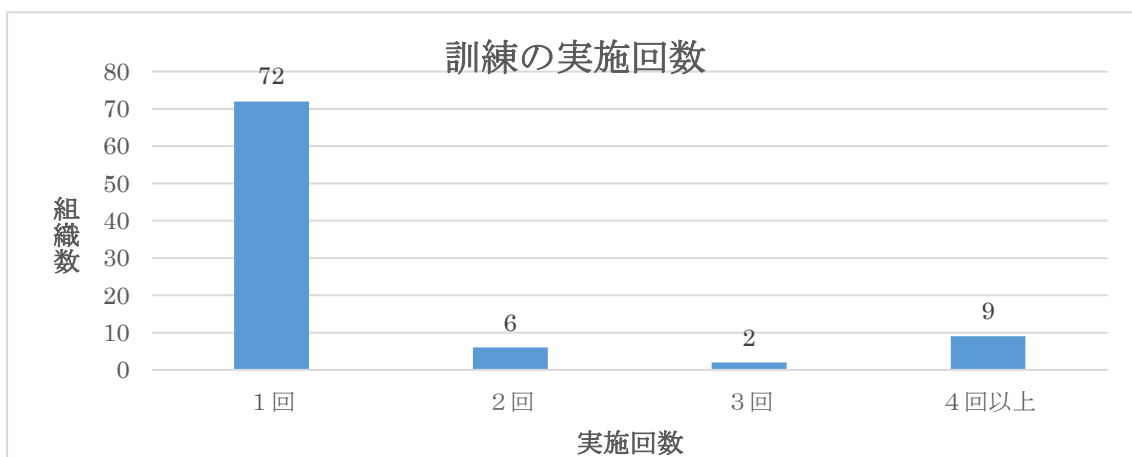
研修会：☐ 実施した（ 回） ☐ 実施していない

- ・ 防災訓練の回数については、1回もしていないところが最も多く、1回が2番目に多い傾向にありました。

【訓練】

	実施した	実施していない
防災組織に関する訓練の開催	89	474

n=563



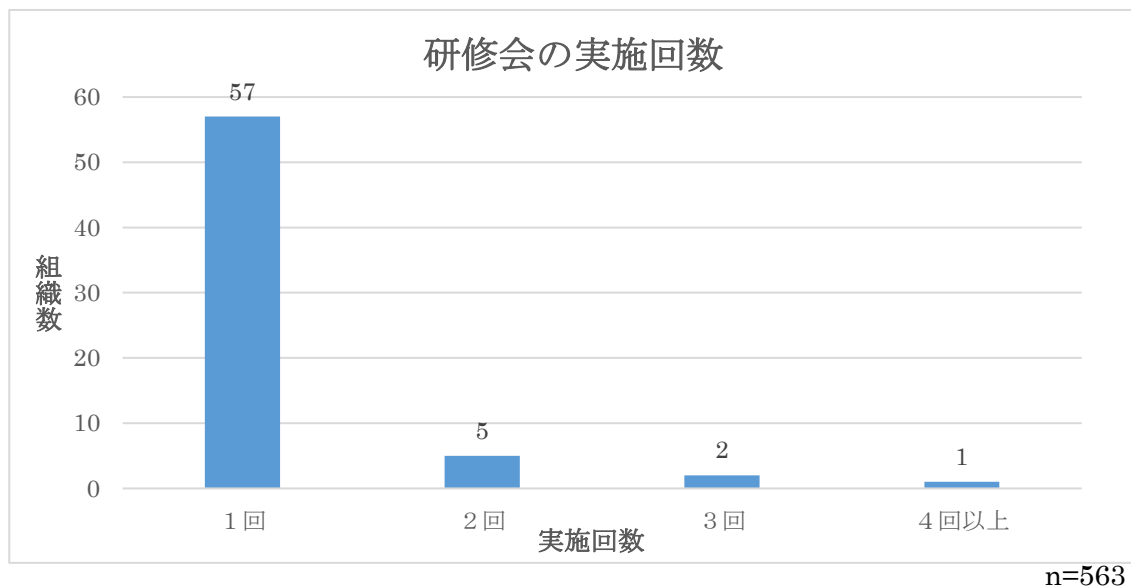
n=563

- ・ 研修会の回数についても、1回もしていないところが最も多く、1回が2番目に多い傾向にありました。

【研修】

	実施した	実施していない
防災組織に関する研修会の開催	68	495

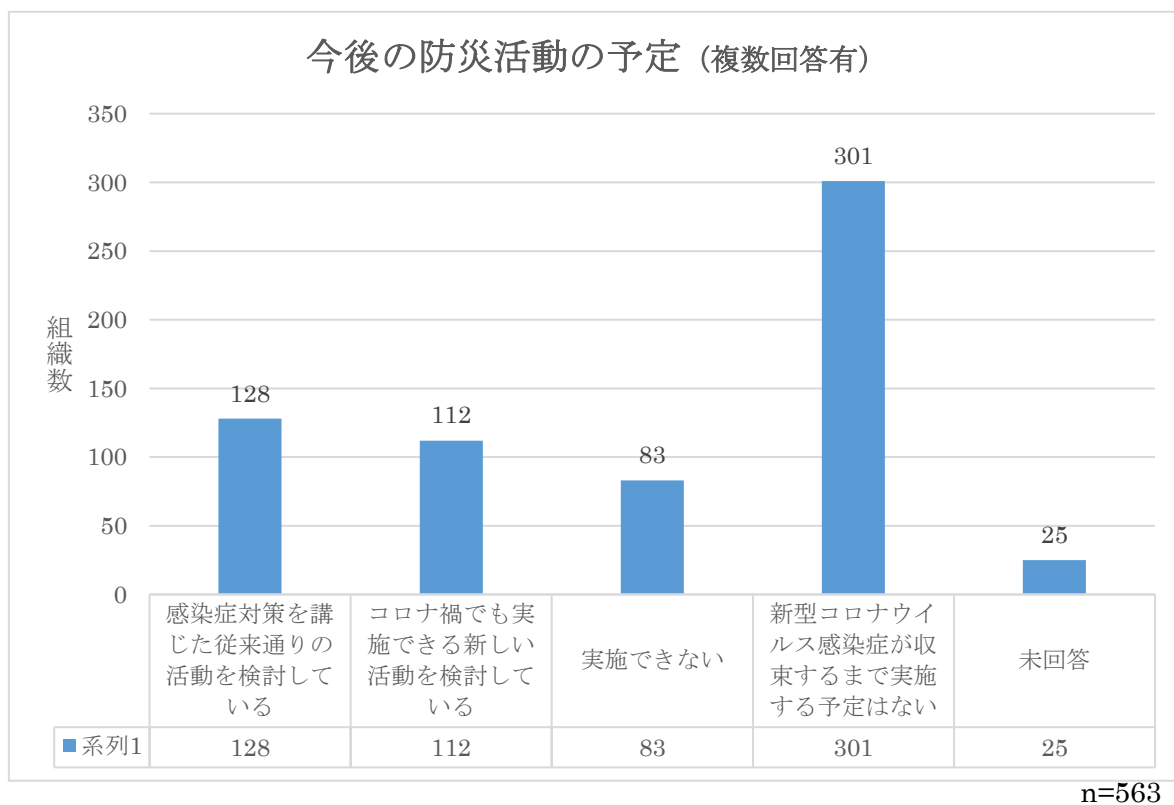
n=563



(3) 今後の防災活動の予定について、該当するもの全てにチェック等を入れてください。

- ☐ 感染症対策を講じた従来通りの活動を検討している。
- ☐ コロナ禍でも実施できる新しい活動を検討している。
- ☐ 実施できない。
- ☐ 新型コロナウイルス感染症が収束するまで実施する予定はない。

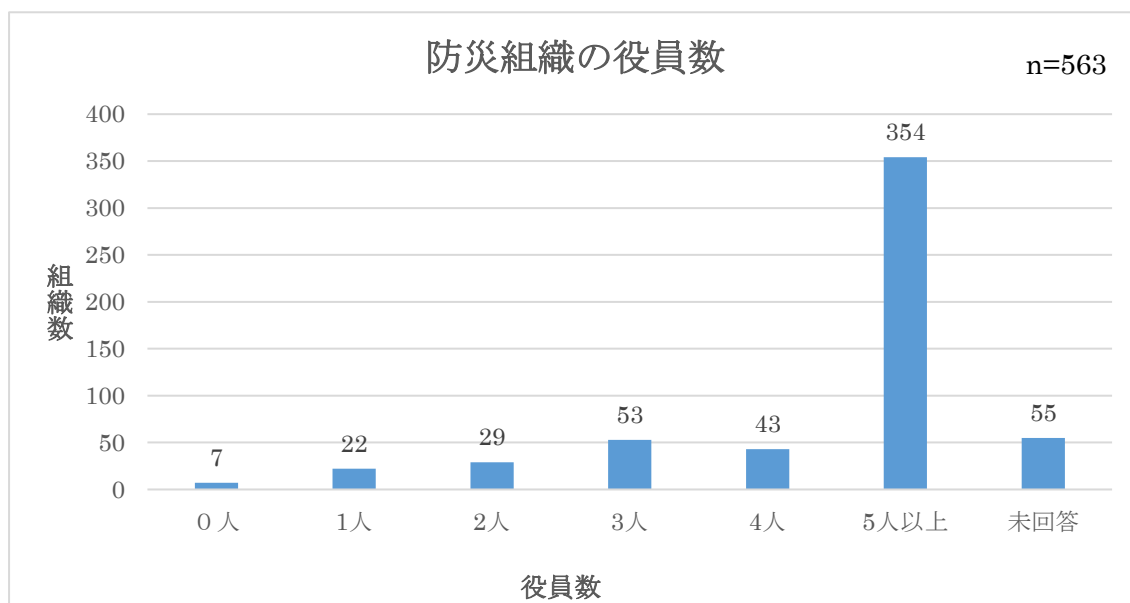
- ・ 今後の防災活動の予定については、「新型コロナウイルス感染症が収束するまで実施する予定はない。」が最も多く、「感染症対策を講じた従来通りの活動を検討している。」が2番目に多い傾向にありました。

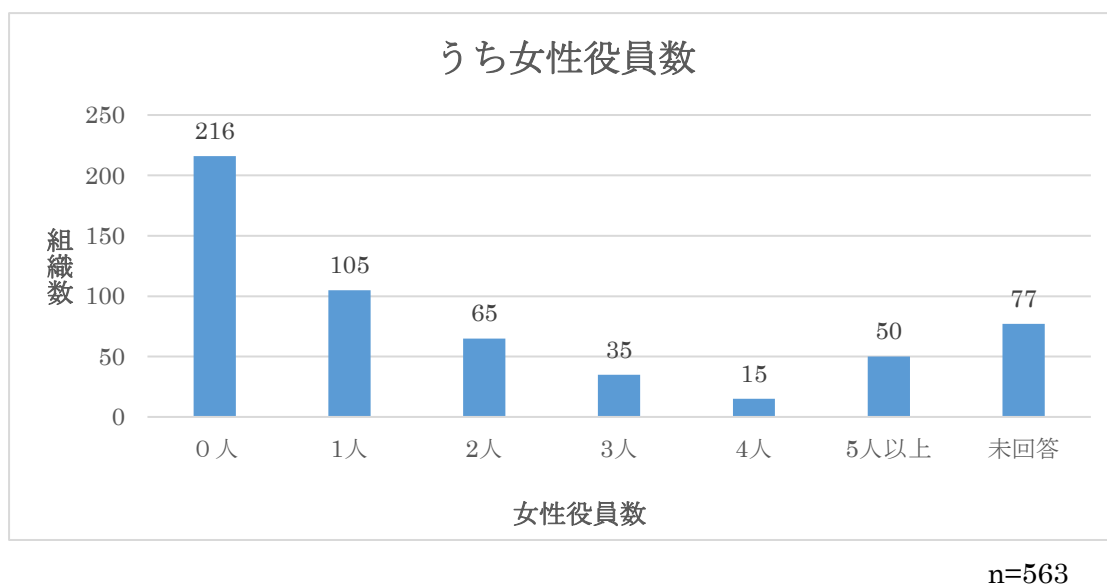


(4) 防災組織の役員数を記入してください。

（ 人）うち女性（ 人）

- ・ 役員数については、1人から5人までの組織が最も多く、女性の人数についても同様に1人から5人までの組織が最も多い傾向にありました。





2 避難所運営委員会について

※ 避難所運営委員会とは、避難所の運営を自主的に協議し、決定するために、自主防災組織、避難者、行政担当者、施設管理者等で構成する組織です。

(1) 大規模災害発生時（南海トラフ地震等）には、行政職員の避難所への到着が遅れたり、職員自身が被災してしまうこともあるため、避難所の開設・運営は地域住民が主体となって実施することも必要となる場合がありますが、このことを知っていますか。

☐ はい ☐ いいえ

- ・ 避難所運営委員会について知っているとした組織は、417組織でした。

	はい	いいえ
避難所運営委員会	417	146

n=563

(2) 避難所運営委員会の設置状況について、あなたの組織では、避難所運営委員会を設置していますか。

☐ 設置済 ☐ 未設置 ☐ 検討中

設置済に回答した場合は、(3)～(8)にもお答えください。

- ・ 避難所運営委員会を設置済の組織は、91組織でした。
また、避難所運営委員会の設置を検討している組織は、43組織でした。

	設置済	未設置	検討中
避難所運営委員会 設置状況	91	429	43

n=563

(3) 避難所運営委員会を設置している避難所名を記入してください。

()

避難所運営委員会を設置している避難所

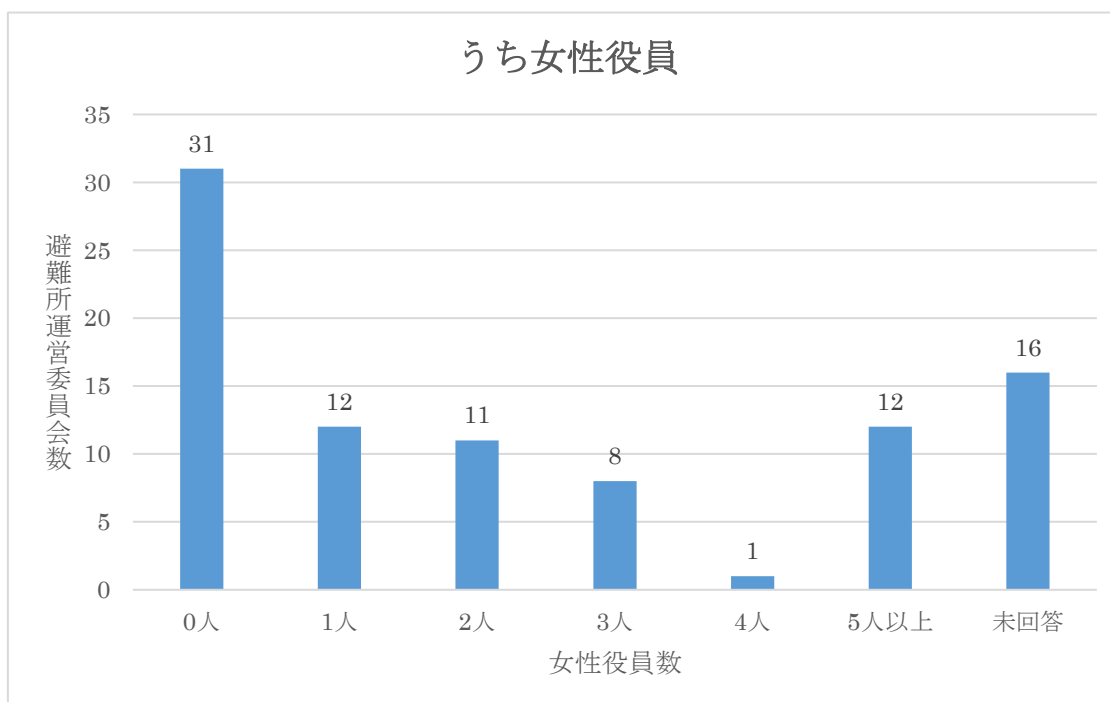
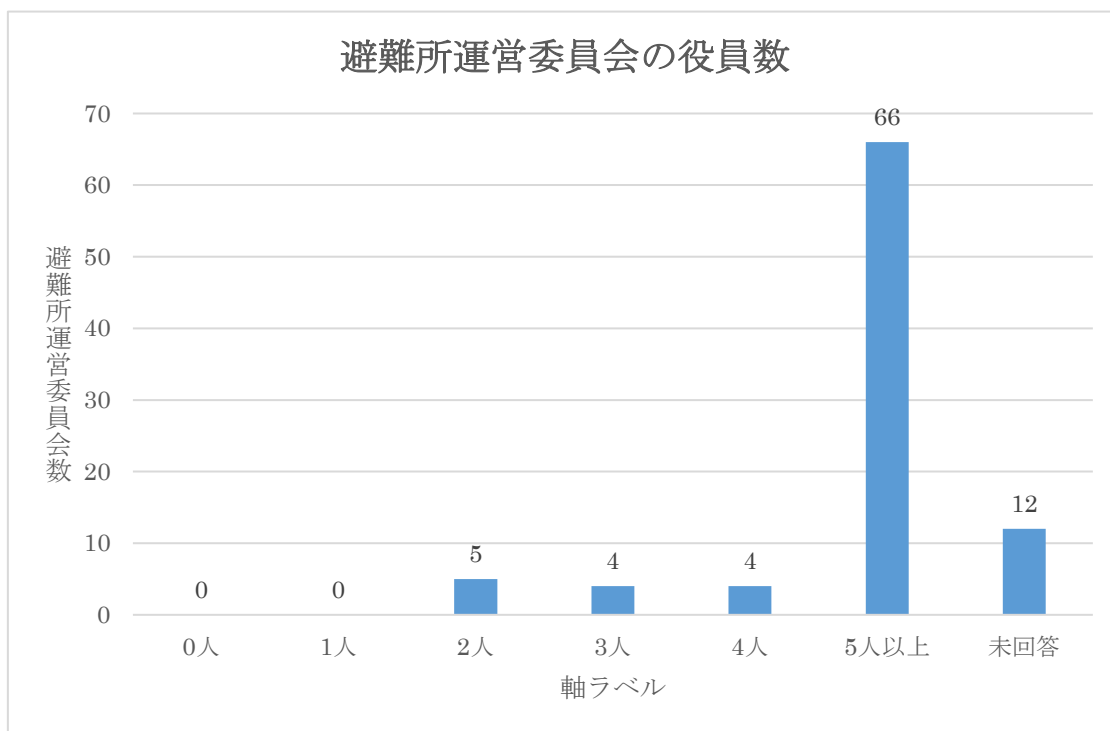
豊が丘小学校、大里小学校、白塚小学校、町屋会館、北立誠小学校、安東小学校、楡形小学校、新町小学校、西橋南中学校、養正小学校、鷺崎地区防災コミュニティセンター、東橋内中学校、敬和小学校、敬和公民館、修成小学校、セントヨゼフ女子学園、三重県立津工業高校、三重県立聾学校、南が丘小学校、南が丘中学校、南が丘会館、南郊中学校、高茶屋市民センター、雲出小学校、雲出市民センター、雲出市民館、殿木集会所、雲出地区防災コミュニティセンター、成美小学校、北口文化会館デイサービスセンター、桃園小学校、誠之小学校、久居総合福祉会館、河芸公民館、千里ヶ丘小学校、旧波瀬小学校体、波瀬ふれあい会館、とことめの里一志、川口小学校、倭小学校、美杉中学校、

※市が指定している避難所のみを記載しています。

n=563

(4) (2)で回答した避難所運営委員会の役員数を記入してください。

(人) うち女性 (人)



(5) 避難所運営マニュアルを策定していますか。

※避難所運営マニュアルとは、平常時から避難所運営の役割を決め、災害時には避難所の運営を円滑にするためのマニュアルです。

☐ 策定済（避難所名 _____） ☐ 策定中 ☐ 未策定

- ・ 避難所運営マニュアル策定済みの避難所運営委員会は62組織でした。

	策定済	策定中	未策定
避難所運営委員会 設置状況	62	11	18

n=91

(6) 避難所運営訓練等を行っていますか。

☐ はい ☐ いいえ

- ・ 避難所運営訓練を行っている組織数は、45組織でした。

	はい	いいえ
避難所運営訓練等の実施	45	46

n=91

(7) 避難所運営委員会の運営について、地区で取り組んでいる事例、参考となる事例等がありましたら、該当するもの全てにチェック等を入れてください。

☐ 避難所運営ゲーム（HUG）を実施している。

☐ 避難所運営訓練（実践形式）を実施している。

☐ 夜間訓練を実施している。

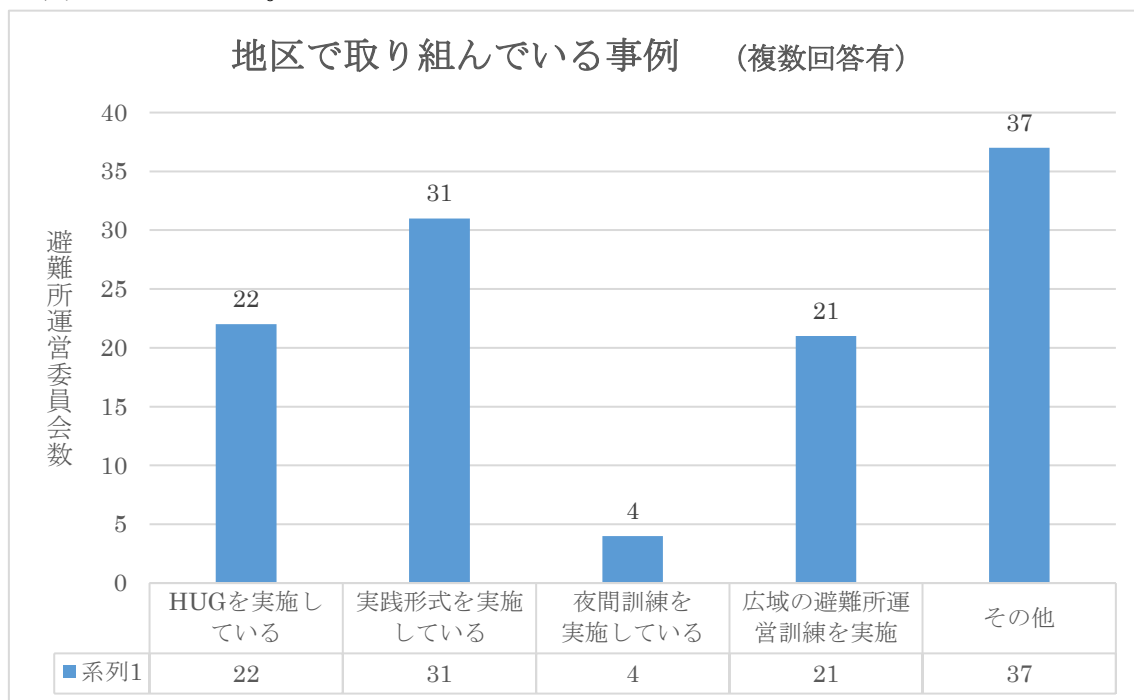
☐ 広域の避難所運営訓練を実施している。

☐ その他

（具体的に _____）

- ・ 避難所運営委員会の運営に地区で取り組んでいる事例等については、「その他」が最も多く、「避難所運営訓練（実践形式）を行っている」が2番目に多い傾向

向にありました。



〈その他〉 ※その他については、一部抜粋して掲載しています。

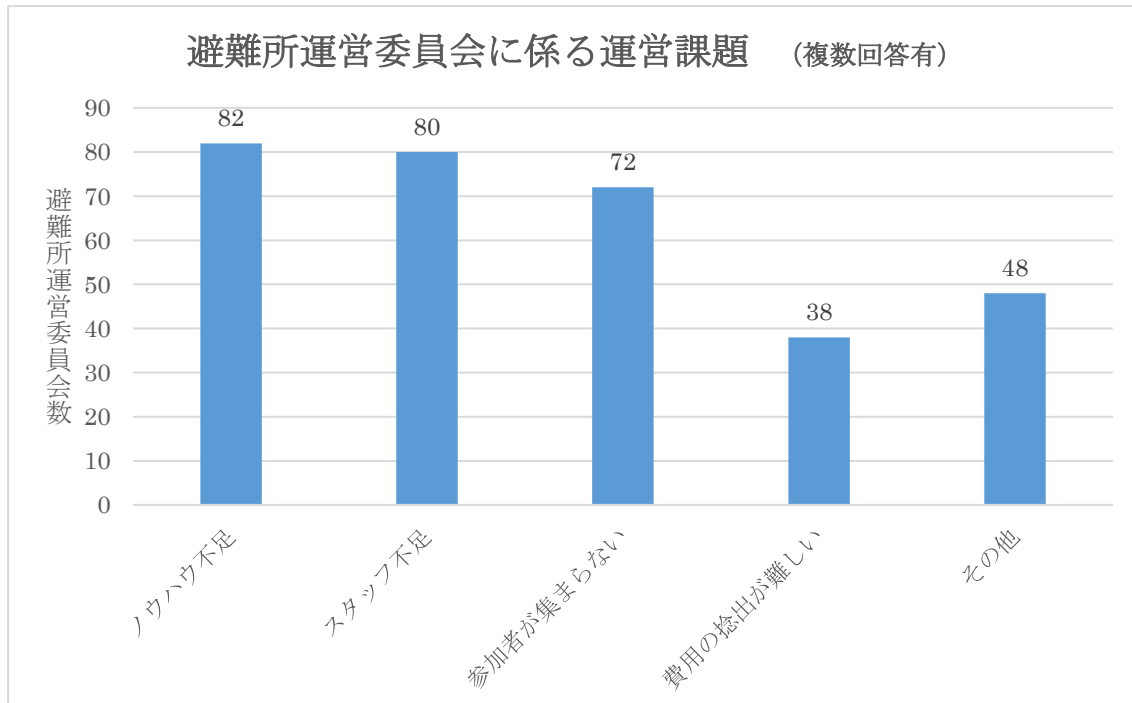
- ・ Web 情報とアプリのダウンロード用 QR コードを活用したスキルアップの実施
- ・ 世帯台帳を作成し避難困難者及び高齢者の一人住まいを訪問する。
- ・ 各組長へ災害時の課題を設定し、運営委員会へ連絡する。
- ・ 各係ごとの研修会（リーダー育成）
- ・ 子どもサロンの中で子どもたちと訓練をした
- ・ 自衛隊の訓練時、可能な限り参加若しくは見学に行くこと
- ・ 備蓄食料の在庫を公開している
- ・ 在宅避難のすすめと備えのチラシ各戸配布
- ・ 避難所の設備の確認
- ・ 避難所運営マニュアル改定
- ・ 自治会各組（10組）に防災リーダー10人と行動計画に基づき各班員20人を設けている
- ・ 地区全体の総合訓練

(8) 避難所運営委員会の運営について、課題等がありましたら、該当するものの全てにチェック等を入れてください。

- ☐ 避難所運営委員会の運営についてのノウハウが不足している。
- ☐ 避難所運営委員会の運営に協力してくれるスタッフが不足している。
- ☐ 参加者が集まらない。
- ☐ 訓練実施のための費用の捻出が難しい。
- ☐ その他

(具体的に_____)

- ・ 避難所運営委員会の運営の課題については、「ノウハウ不足」が最も多く、「スタッフ不足」が2番目に多い傾向にありました。



〈その他〉※その他については、一部抜粋して掲載しています。

- ・ 参加者が集まらなくはないが、世帯数の割りに参加人数が少ない。避難に関する「感心」が薄く感じる。
- ・ 役員の高齢化が目立つ、次世代のリーダー育成が急がれるのではないかと一部の人員に負担がかかっている。
- ・ 当課題は連合自治会が中心になり推進すべき、その中に委員会を設置するのが望ましい。避難所は多くの自治会の指定になっているため
- ・ 自治会役員が次々かわり引継がうまくいってない
- ・ 実際の災害時にどのように対処するのかノウハウが不足
- ・ 分散避難時の連携方法が課題
- ・ 訓練の度に参加者が交替するため、特定の人を定めることが出来ない。毎年繰り返すことで地域のリーダーを増やしている。
- ・ 地区（自治会）によって防災意識（体制）のばらつきがある
- ・ 避難人数に対応できる食糧、医薬品、仮眠ができる備蓄用品の不足、暖房器具など適正な配備が必要と考えますが、予算が問題です。
- ・ 平時から避難所運営委員会を設置し、活動する規約がないため、総合的な訓練やマニュアルの見直しが困難である。また、防災部員が毎年代わるためノウハウの体得も困難である。
- ・ 避難所は他地域との共同使用となることや、学校、市、他地区を含めたマニュアル作りが必要

3 避難行動要支援者名簿に係る個別計画※について

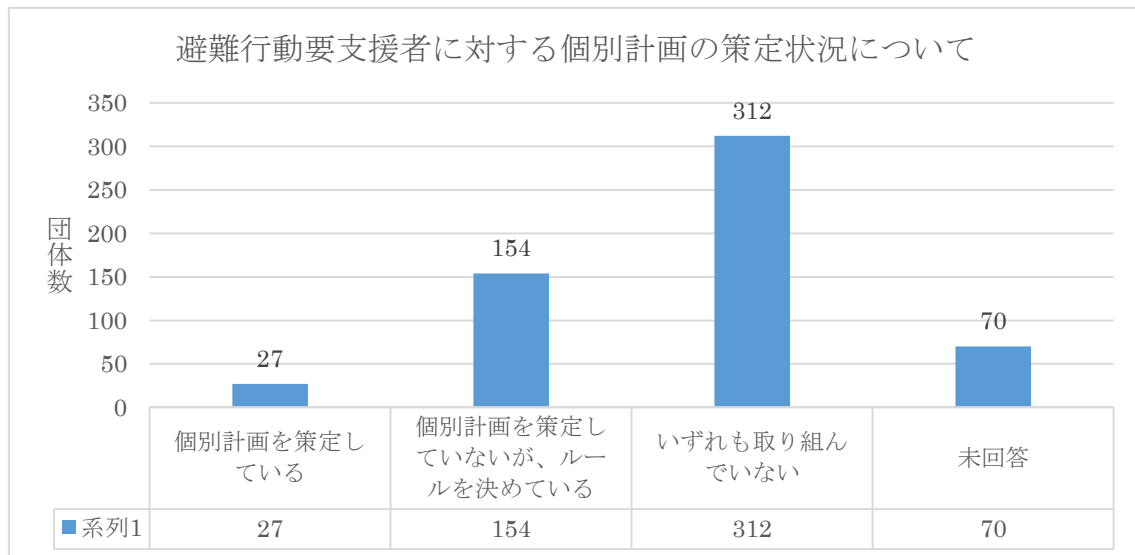
※ 個別計画とは、地域の特性や実情を踏まえつつ、避難行動要支援者名簿情報に基づき、避難行動要支援者と打ち合わせ、具体的な避難方法等を記載したものです。

なお、津市では、避難行動要支援者避難支援活用シートを作成しており、当シートに記載してあれば、個別計画を網羅できているものとしています。

(1) 避難行動要支援者に対する個別計画の策定状況について。

- ☐ 個別計画を策定している。
- ☐ 個別計画は策定していないが、災害時の避難行動要支援者への安否確認など地域全体でルールを決めている。
- ☐ いずれも取り組んでいない。

- ・ 避難行動要支援者に対する個別計画の策定状況について、「いずれも取り組んでいない。」が最も多く、「個別計画は策定していないが、災害時の避難行動要支援者への安否確認など地域全体でルールを決めている。」が2番目に多い傾向にありました。

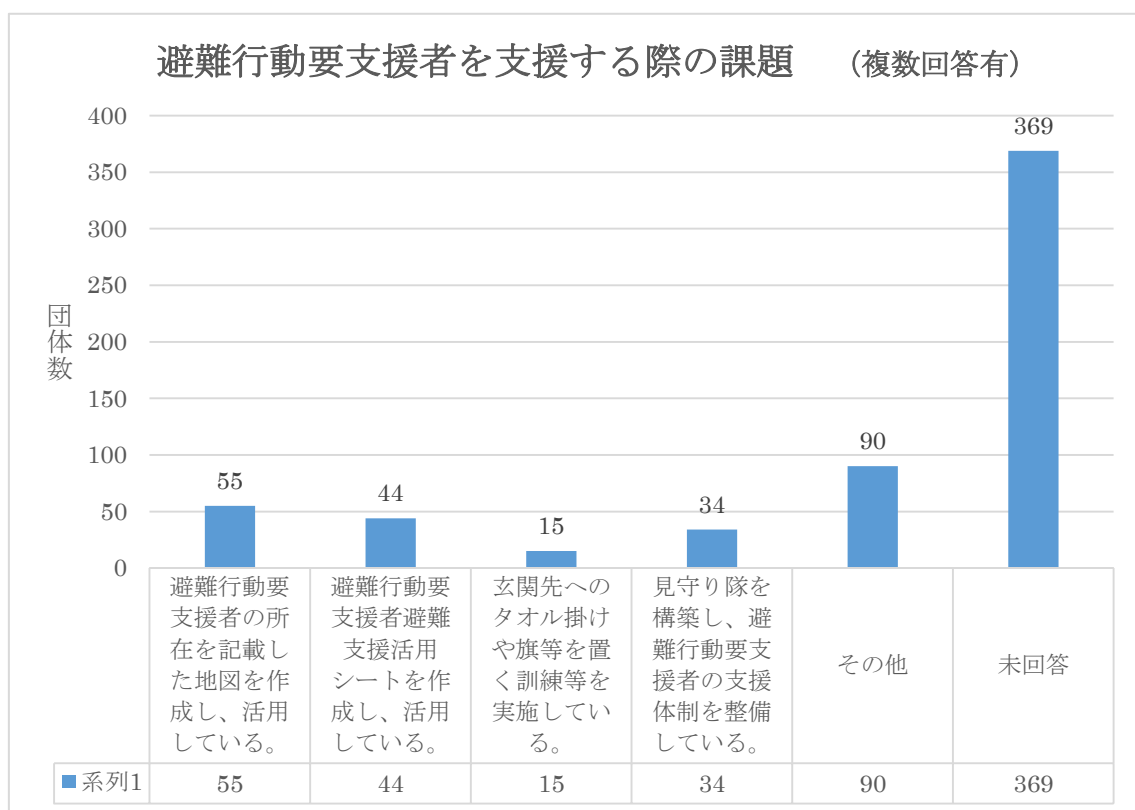


(2) 個別計画の作成や平常時の取組について、地区で取り組んでいる事例、参考となる事例等がありましたら、該当するもの全てにチェック等を入れてください。

- ☐ 避難行動要支援者の所在を記載した地図を作成し、活用している。
- ☐ 避難行動要支援者避難支援活用シートを作成し、活用している。
- ☐ 玄関先へのタオル掛けや旗等を置く訓練等を実施している。
- ☐ 見守り隊を構築し、避難行動要支援者の支援体制を整備している。
- ☐ その他

(具体的に)

- ・ 個別計画の作成や平常時の取組については、「その他」が最も多く、「避難行動要支援者の所在地を記載した地図の作成」が2番目に多い傾向にありました。



n=563

〈その他〉※その他については、一部抜粋して掲載しています。

- ・ 要支援者の近所の若い人に災害時の時、避難の手助けをお願いしています。
- ・ 平常時からのあいさつ運動、声掛けの実施
- ・ 各班住居者名簿に支援者をマークして各班長は管理
- ・ 自治会長・班長・役員を中心に見守り活動を行っている。
- ・ 社会福祉協議会と連携した絆のバトン事業
- ・ 役員と民生委員との連携
- ・ 個人別の話し合いを実施し、避難時には声をかける。
- ・ 今後具体的な検討を進めていきたい。
- ・ 避難する方への行動指針を配布
- ・ 地区全体で絆のバトン運動を行っている。
- ・ 世帯台帳を作成し、災害時の安否確認に活用している
- ・ 運営委員の担当区域ごとの被支援者が誰かを知らせている。
- ・ 「全員避難しました」のイエロータオルを作り訓練に玄関先等に表示したが防犯上の問題もあり、徹底出来ず。
- ・ 地区民生委員と要支援者について情報交換をしている。
- ・ 当地区では要支援者について、ほぼ把握しているため、災害時の場合は自

自治会役員が主導で行っていかうと考えています。

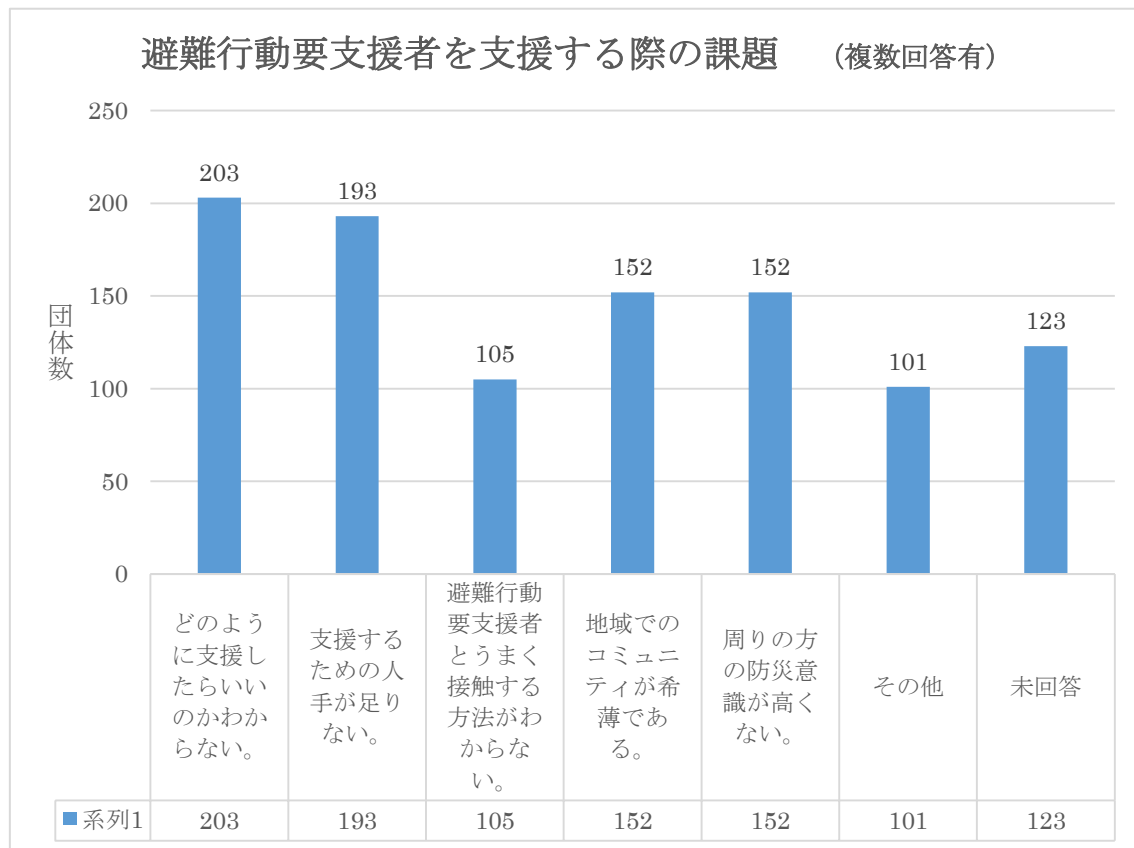
- ・ 避難時に該当者宅へ声掛けを行うこととしている。
- ・ この人がこの要支援者の支援にあたるとマンツーマンで決めるのではなく、組の全員で支援するように訓練しています。
- ・ 緊急時、家族等への連絡シートを集めて保管しています。
- ・ 要支援者リストに基づき住所等から家族構成を確認しています。
- ・ 住民のつながりが深いため、支援が必要な状況の把握はできている
- ・ 「避難行動要支援者名簿」を作成し、防災会代表と防犯部会代表及び民生委員に配付
- ・ 要支援者（自主防災会独自）カルテを作成し有事に備えている
- ・ プライバシーの保護から要支援者の近隣役員に口頭でお願いしている
- ・ 特に必要と思われる人については電話番号の把握
- ・ 高齢者（一人暮らし）に避難準備時に自主防より声かけ、呼びかけを実施
- ・ 津市避難行動要支援者に加え令和２年度、８０才以上全員を対象に広げた。支援者リストを別に有。
- ・ 近隣への声かけ
- ・ 毎朝巡回し、情報収取、コミュニケーションに努めている。
- ・ 個人情報のこともあり難しい面もあるが、助け合う気持ちを持とうとしている。
- ・ 自治会の会合で要支援者名を発表し、緊急時に近くの者が支援することとしている。

(3) 避難行動要支援者を支援する際の課題がありましたら、該当するもの全てにチェック等を入れてください。

- ☐ どのように支援したらいいのかわからない。
- ☐ 支援するための人手が足りない。
- ☐ 避難行動要支援者とうまく接触する方法がわからない。
- ☐ 地域でのコミュニティが希薄である。
- ☐ 周りの方の防災意識が高くない。
- ☐ その他

(具体的に _____)

- ・ 避難行動要支援者を支援する際の課題については、「どのように支援したらいいかわからない」が最も多く、「支援するための人手が足りない」が2番目に多い傾向にありました。



n=563

〈その他〉※その他については、一部抜粋して掲載しています。

- ・ 各自、自分たちが逃げるので手いっぱいだと思うので要支援者まで手が届くのかかわからない。
- ・ 個人情報保護の関係から情報公開が難しく対応策がない
- ・ 住民の高齢化のため、支援するための人や方法が具体的に考えることができない。中学生、高校生の活用を考えてみたが人数が集まらない。
- ・ 高齢者が60%を超える状況であり、避難について話しても、どこにも行かれへん、いつ死んでもかまわない等、移動する様子がない。
- ・ 民生委員との情報共有が大切である
- ・ 担当（支援）者を具体的に定め（複人数）、工夫をして支援活動が可能な状態にしていきたい。

- ・ 大地震と豪雨では避難の方法も違うと考えられますが、今知りたいのは大地震発生時の津波襲来情報（規模と何時）です。それによっては避難行動要支援者の支援に課題が残ります。
- ・ 個人情報の開示が難しい
- ・ 高齢化が進んで現実、役に付く人がいない
- ・ 今迄水につかった事もなく避難の意識が低い事で要支援者に対する割当て分担が出来ていない。
- ・ 民生委員の方と連絡は取っているが、いざ災害があった時に要支援の方に何ができるか、その余裕があるのか等心配である。
- ・ 避難行動要支援者の個人情報をできるだけ伏せた形でどこまでオープンにして支援者応援体制を構築していくかが難しい。
- ・ 昼間は、地域に若い人がほとんどいない。昼間の緊急避難は高齢者がほとんどとなる。
- ・ 要支援者の方と合同の活動が出来ていない。
- ・ 要支援者のプライバシーの問題あり。共有化するのが難しい。ただ、ルール化はしていないが、組長が避難時には要支援者に対して声かけ、手助けをするようお願いしている。
- ・ 日常のコミュニケーションが不足している。
- ・ 今年若年層を中心に自主防災会を活性化、今後改善を進めます。
- ・ 災害経験がなく、火災以外の防災意識は全体的に低いと思われる
- ・ 防災組織に関する活動全般に未知の部分が多く、研修や訓練に早急に着手することが必要
- ・ 歩行困難者等の対応は専門性のある介護士等の知識が必要であり、一般人ではどこまで支援していいのか分からない
- ・ 自治会役員の高齢化や個人情報保護の壁がある
- ・ 避難行動要支援者が他人に支援して欲しいのか不明である。有事の場合、どこまで支援を必要としているのか聞きにくい。
- ・ 自治会役員となれば役員同士で責任を持つとなっているが役員全体が高齢化傾向の為いつまでできるか心配
- ・ 災害発生時に活動できる人員数がわからない

4 その他

自主防災会で行っている事例、他の自主防災会の参考となる事例がありましたら、簡潔に御記入ください。（自由記載）

自主防災会で行っている事例等の主な分類

防災活動について	27 件	防災意識・訓練等への参加について	16 件
自主防災組織・避難所運営委員会等の運営について	11 件	避難行動要支援者名簿について	8 件
高齢化に関する対応について	6 件	避難所について	10 件
資機材、物資等について	12 件	その他	8 件

自主防災会が行っている事例等については、全体で98件の記載がありました。その内、防災活動について（27件）、防災意識・訓練等への参加について（16件）等に関するものの記載がありました。

以下は、参考となる事例等を項目ごとに抜粋して掲載しています。

防災活動について
- 車いすを使用して要支援者を安全な場所まで運ぶことができるかを実践している。例えば、ビルの3階以上まで運ぶのに何人が必要か、時間はどれくらい掛かるか（津波高を10メートルと仮定） - R2年度は追加整備された防災物品の取扱い研修を実施（間仕切り、段ボールベッド） - 防災意識を上げるための回覧を作る。 - 玄関に黄色い布等をかけ、生存確認の訓練を日常行っている。 神戸市のプラスアーツの活動を取り入れて欲しい。（津市が音頭をとって） - 本年度、コロナ禍のなかでの自主防災活動は、自治会内の組別（班別）避難訓練・避難支援計画説明会と小グループ単位で実施した。また、避難訓練では、同一日に開始時間を組み（班）単位でずらして実施し、この開始時間をずらした対応は、防災資機材の引継ぎ訓練として実施したものである。なお、現在、自主防災会で保有している防災資機材の有効的な活用について実証実験を兼ねた避難訓練内容で、効率的な防災資機材利用についての貴重なデータ取得をしたが、今後さらに精度を増した訓練をしていくことにしている。自主防災会独自に自治会会長より提出いただいた「安否確認・避難支援シート」内容より避難支援希望者別避難計画を策定して、

策定内容の説明会を組単位で実施して、本年度の避難訓練は、その避難支援計画に沿った避難訓練であった。

- ・ 避難経路を歩き、危険個所を記入した地図を作成している。
- ・ 組内を再編成して、玄関を出たら見渡せる家並みを組内として広報などを配りやすくし、災害時には、まず自分の安全を確認したうえ、家を出て周りを見渡し、応援の必要な所に回り近所が助け合う
- ・ コロナ禍で令和2年中、避難訓練を実施しているが新型コロナウイルス感染症にみられる長時間の避難を想定した上での防災訓練に、避難所運営計画を策定しておく必要があると考えます。
- ・ 災害時に備え「我が家は大丈夫」と書いた黄色い旗を全戸に配布し、その旗を掲示する事によって安否確認が出来る様、防災訓練を通じて実施しています。

防災意識・訓練等への参加について

- ・ 町内に福祉施設があり、連携に努めている。
- ・ 地区協議会では、活動を行っているが、自治会の組織が小さくて主だった活動はできない。協議会の中での研修や訓練等に参加するしかないのではと考えている。
- ・ 継続的に防災訓練を実施する事により、防災意識の向上に努めている。
- ・ 避難情報が発生された場合は、全自治会員に連絡をするため、全世帯の緊急連絡電話番号表を作成済みです。いままで台風で避難情報の発生があった場合は何度も連絡をしています。それからハンドマイクで町内全域を回って知らせています。過去最高の避難者数は全員の4割が避難しました。
- ・ 近所同士互いに助け合うことにしている。

自主防災組織・避難所運営委員会等の運営について

- ・ 個の自治会だけでなく、広域（自主防災協議会）での活動も行っている。
- ・ 今年度、風水害及び地震に対する「タイムライン」を策定。災害発生時、避難所などへの逃げ遅れによる犠牲者を最小限にすることを目的としている。令和3年度以降の防災訓練及び机上訓練、模擬訓練などにより都度見直し、強化を図っていく予定。津市の指定避難所について、地区内に3カ所あるも避難所運営など避難所に関する会議要請はなく、正直避難所運営に懸念、心配をしている。避難所運営マニュアル策定の手引きに基づいた具体対応（検討）を関係組織に要請など行っていく。
- ・ 避難所を共同使用する他地区の方との打合せと合同訓練〇〇避難所運営のためのリーダー養成研修の実施
- ・ 指定避難所が遠いので一時避難場所として集会所を昨年竣工しました。宅地開発から半世紀が経過し住民の高齢化も進んでいるが、10年前から地域ボランティアグループ（25名）を結成して、防災防犯や環境美化活動に積極的に取り組んでい

る。今年は若年層や新住民を中心に、自主防災（防犯）会の活性化を目的に再結成しました。 ・ 各組織と協力し自主防災会を運営する。自治会・自警消防団・婦人会・子ども会・関連ボランティア団体 ・ 自主防災会判別行動計画の策定を行った。 ・ 私どもの自治会・自主防災会組織のスタッフは、明日来る大災害に対して危機感を持ち自己の行動に責任を持っていたいでいる。 ・ 隣であつても顔を合わすことも話をするこゝもしない人が何人かいて会長として困っている。現在自治会内での「防災組織」に変える様検討中。
避難行動要支援者名簿について
・ 地区社協と協力し要支援者を把握している ・ もしもの時の支援員（自治会長・民生員・かかりつけ医等）を記載した安心カードを自治会員に配布し冷蔵庫に貼り付けるよう依頼している。
高齢化に関する対応について
・ 自宅を離れて避難所に行くことも又生活をするこゝが考えられない。特に夫婦ともに要支援者の答えが多い、しかし実際に災害が発生した時と同じ答えか？については、個人によって異なるので必ず声をかけることにした。組の中において誰が要支援者かは事前に確認していますので、組単位での活動に重きをおきます。 ・ 高齢化が進む中、出来るだけ隣家、隣人で助け合う様に呼びかけを行っている。
避難所について
・ 他の自主防災会の参考となる事例の紹介を切望します。避難所での3密対策の取り組みとして、他市ではテントを用意して、家族単位で避難生活をしている。防災無線マイクの整備強化。 ・ 一時避難場所と指定避難所の役割が明確になっていないため、一時避難場所における役割、防災資機材の整備など具体的にマニュアル等で示してほしい。
資機材、物資等について
・ 防災倉庫整理し、一掃しました。防災備品台帳の作成し年1回は、チェックする体制づくりをつくりました。防災だよりを発行し、各世帯で3日間程度の食料などの準備のお願いをし、自治会では、高齢世帯数程度の食料（菓子、水）を確保し、必要最低限度の備品にしました。 ・ 地震による屋根の損壊に備えてブルーシート50枚、固定用クレモナロープ1000mを用意しました。携帯電話充電用にカセットボンベ発電機3台とUSBタップ

114個、カセットボンベ96本を用意。停電と断水に備えて携帯トイレ4000千回分用意しました。

- ・ 集会所には水と非常食（1000食分）備蓄されており、備品はテント（7）、自家発電機（3）、水のプール（1）、毛布、トイレ備品、井戸ポンプ、釜（2）、調理器具等が備えられているが3～5日程度持ちこたえられると思うが、その後は公的援助を求める。
- ・ 自治会で保有している防災資機材小型消防ポンプ、発電機、救助資機材などの取り扱いが緊急時にできるように自治会内の13ブロックが順番に取り扱い訓練、点検を毎月1回（概ね年1回）は実施し、災害に備えています。また、毎年7月には役員交代などがあるため、総会を開き任務分担表、消防水利、消防設備の配備などマップを配布し、確認をしています。ただし、令和2年度は、コロナウイルス感染症の関係で防災会議は中止しました。
- ・ 地域防災力強化推進補助金を活用し、大規模災害発生に備え、防災用品を購入している
- ・ 消火器を順次、設置しています。将来的には全域に。ヘルメットは各戸2個ずつ配布。広報の配布に合わせて避難所の説明等しています。

その他

- ・ 今後の地域防災力の向上に役立てるための調査項目としては不適切、不足。
- ・ 当自治会は個人住宅及び戸別借家の入居者の占める割合は全体の約3割で、それ以外の方はアパート等の入居者で、その大半が高齢者や外国籍の方であり、平素のコミュニケーションが少なく細かな連携を図ることが困難な現状です。
- ・ 今回の防災アンケートの内容はとても大切なことで、自治会役員の任期が終わる今頃よりも任期のスタート時にして頂ければ、任期を通して取組むことができたと思います。